

■今月の特選句

2015年6月

二の腕の嫌がってる更衣

下嶋四万歩

肩から肘までを「二の腕」という。貧弱な腕を曝すのが恥ずかしい。あるいは脂肪がたるんで「振袖」状態か。「二の腕に二の足を踏み更衣」。

竹の子の走りや猪の一の膳

藤岡蒼樹

筍の出たては柔らかで美味。あんな旨いもんは人間どもに食わせるわけにやいかん。よし、オレも一句詠むべ。「竹の子の走りへ猪突猛進す」。

酔客にげんなりとして桜散る

横山喜三郎

泥酔というのだろうね。なぬ？「酔吟」だと？酔吟が席題か。「お花見や今週二度めの俳句会」。「意味ですか。酔吟を水と金曜日にしたんです」。

ロボットを気ままに遣わせ夏座敷

原田 暁

八木健の句に「襖四枚どこかに隠し夏座敷」があったなあ。ロボット掃除機で現代を詠んだね。添削しよう。「ロボットに俳句創らせ夏座敷」。

ゴミほどに溜まらぬマネー万愚節

青木輝子

早速、添削を。「このゴミがいつかマネーに万愚節」。有り得んな。「沢山の俳句がゴミに万愚節」。これもダメ。「ゴミとして捨てた句探し万愚節」。

ぎつくり腰なぜか勤労感謝の日

上山美穂

日頃頑張ってくれている腰に休んでもらう日と解釈しましょうか。治るまでに一週間ですか。「びつくり腰勤労感謝の日を七日」。

■今月の秀逸句（・・・七七をつけてみました）

雷や海を味方に裸狩り ・・・ちよつとスケベな雷神さまか	栗倉健二
百薬の長は常飲薬の日 ・・・毎食前に飲んでるじゃんか	田村米生
地球儀の北極点に縄止まる ・・・蠅も恐れる地球温暖	柳 紅生
治にあつて乱を忘れず武具飾る ・・・安倍さんきつとこの句を褒める	飯塚ひろし
浮かれ猫恋敵出で来モヒカンに ・・・演技の未熟補う髪型	久松久子
手拍子の合はぬは春の風邪の所為 ・・・風邪の全快祝う手拍子	加藤 賢
パブロフの犬のごとくに春眠し ・・・催眠剤の袋を見たか	金澤 健
石仏を引張つてゐる蜘蛛の糸 ・・・負けたる蜘蛛は絡め手に出る	氏家頼一
朧月胸の谷間にボールペン ・・・恋の一句を窪みに綴る	久我正明
房垂れて藤棚となるカーポート ・・・藤房拭ふマイカーの屋根	工藤泰子

春の夢ひねもすにたりにたりかな
・・・与謝の蕪村も参った参った

小林英昭

花と散り今日から予備校新入生
・・・来季咲くとは約束できず

酒井鹿洋

たらふくの風にメタボやこいのぼり
・・・無風となれば激瘦の鯉

白井道義

■今月の滑稽句

【佳作】	卒業生天国地獄スタートす 単身の夫に陰膳初鯉	青木輝子 青木輝子
【佳作】	代田はや刺子模様を纏ひけり 青嵐や雲を泡立て散しけり 休み田のありて代田はとびとびに	青山桂一 青山桂一 青山桂一
【佳作】	春寒し家人歯医者に行つたまま 居眠りの車内を虻の逃避行 釣糸に絡まってをり鯉のぼり	赤瀬川至安 赤瀬川至安 赤瀬川至安
【佳作】	やはらかき幼き草の芽に座る あやしいぞ空中停止の熊ん蜂 風薫る転んだ園児を見て涙	秋月裕子 秋月裕子 秋月裕子
【佳作】	新茶だと言はれ居住まい正しけり 晩成はあきらめて食ぶ豆の飯 道教へこれから先はカーナビで	有吉堅二 有吉堅二 有吉堅二
【佳作】	ほたる狩りほたる不在の闇深し 軒の蜘蛛バンジージャンプを習いおり	栗倉健二 栗倉健二
【佳作】	庄助も早寝早起き植田村 新茶汲む男やもめに花が咲き	飯塚ひろし 飯塚ひろし
【佳作】	もの忘れ眼鏡は頭しゃぼん玉 百足虫打つ見ない振りして掃き飛ばす 牛蛙耳にけだるさ残りけり	井口夏子 井口夏子 井口夏子
【佳作】	花と酒不倶戴天の将棋仇 椿悲しだれも見ぬ間に咲いて散り	池田亮二 池田亮二
【佳作】	嘘ばかり吹いて蛤立候補 春風に替えたばかりの屋根が飛ぶ 地下鉄をひっくり返す春の風	伊藤浩睦 伊藤浩睦 伊藤浩睦
【佳作】	着ぶくれて食事指導を受けにけり その件は先送りしてとこてん 夏に入る雲の向うに雲がある	稲沢進一 稲沢進一 稲沢進一
【佳作】	朝寝さえまならぬ歳早起きす 上品にハンカチ持てば落としけり	井野ひろみ 井野ひろみ
【佳作】	三間を解く早起きの受験生 台風の目の中にみる静座かな	上山美徳 上山美徳
【佳作】	出来立てを鴉が潜る茅の輪かな 蛇追へばどろんと消えし野面積	氏家頼一 氏家頼一
【佳作】	談合の毛虫わさわさしてをりぬ 乗りにけりふらここといふ宇宙船 日永かな「俳句歴一年」読み返す	梅岡菊子 梅岡菊子 梅岡菊子
【佳作】	草笛を上手に吹いて持てもせず 不養生した覚えなき夏の風邪 自称年齢五割掛砂糖水	越前春生 越前春生 越前春生

【佳作】	ちりぢりの童(わっぱ)疾駆す夏の蜂 乙女子のひげは真白し生ビール	大澤酒仙奴 大澤酒仙奴
【佳作】	乙姫を夢に残して昼寝覚 恋風にお尻焦がして蛍かな パソコンに八つ当たりして春の宵	岡野 満 岡野 満 岡野 満
【佳作】	鯉のぼり地球の空気清浄機かな 春も人も惜まれて逝く内が花 薫風や馬糞に堆肥大地の香	小川鮎太 小川鮎太 小川鮎太
【佳作】	八十路とてひとには告げぬ藤の艶 せつかな紫陽花すでに一変化 風五月青葉区青空青二才	奥脇弘久 奥脇弘久 奥脇弘久
【佳作】	奈良町の酒粕に酔ふ春の暮 糸柳亀の一例甲羅干 やつがれの白髪にのせるげんげ冠	笠 政人 笠 政人 笠 政人
【佳作】	ユラリてふ音立て竹の皮を脱ぐ 近道はシロツメグサの花明り 鶯鳴のどちやう揃ひや春の池	加藤澄子 加藤澄子 加藤澄子
【佳作】	花粉症自衛権など話し合ふ 階下から妻の着信音おぼろ	加藤 賢 加藤 賢
【佳作】	乳母さくら見とれていますミルク色 此れを見に今年も来たよ乳母さくら 菜の花や池の周りを赤で咲け	門屋 定 門屋 定 門屋 定
【佳作】	外車乗り付けメーデーの列に加はれり 恋猫や勝者となるも恋の痩せ	金澤 健 金澤 健
【佳作】	ママ友の公園デビュー花の昼 若芝や児がよちよちと千鳥足 短夜や手足もんでる床の中	川島智子 川島智子 川島智子
【佳作】	ファッションに無縁のシャツに更衣 地上の夏が階段を降りてくる 食べる・観る・乗る列長き夏来る	菅野あたる 菅野あたる 菅野あたる
【佳作】	桜餅食い逃げだけは許さない 遺言を閉じるホッチキス青嵐	久我正明 久我正明
【佳作】	張り渡す綱に轡を鯉のぼり 暗算はとても苦手よ百足虫の子	工藤泰子 工藤泰子
【佳作】	風無き日意気消沈の鯉のぼり あげひばり天突きぬけてしまひけり コンビニの介護施設に更衣	小泉花子 小泉花子 小泉花子
【佳作】	やどかりのもつて範垂るリサイクル うぐひすのテープが歌ふ商店街	小林英昭 小林英昭
【佳作】	毎日が更衣なる女子社員 奇妙なる名前並ぶや入学式	酒井鹿洋 酒井鹿洋

【佳作】	うぐいすもずるして鳴くよ今時ね 血縁は意味なく笑い時知らず チューリップ色とりどりの移り気よ	佐藤義子 佐藤義子 佐藤義子
【佳作】	「三四郎」迷羊(ストレイシープ)や彼岸入 答志島ちよつと味見の干小女子 選抜の高校野球白熱す	佐野萬里子 佐野萬里子 佐野萬里子
【佳作】	蜿蜒と虫歯の治療夏に入る ごきぶりやこの世に恐怖あるを知る	下嶋四万歩 下嶋四万歩
【佳作】	大胆に口付けの如食ふ苺 青空や多弁駄弁に揚雲雀 膝崩すミニの気掛かり花見船	壽命秀次 壽命秀次 壽命秀次
【佳作】	葉桜や又もや逃す玉の輿 山笑ふ昔々の山ガール	白井道義 白井道義
【佳作】	葱坊主空が大好きグーチョコパー いつかは笑う時が来る葱坊主 戦後七十年今だに口つむつたまま葱坊主	鈴木和枝 鈴木和枝 鈴木和枝
【佳作】	風光り新栄町食事会 電話して要項届き山笑い テーブルにお茶に菓子置き春灯	鈴木哲也 鈴木哲也 鈴木哲也
【佳作】	連子窓武者人形も籠の鳥 留守札や尼僧も逢瀬花の寺 風当り無くてひ弱や鯉のぼり	高田敏男 高田敏男 高田敏男
【佳作】	サンデー毎日とはいえ五連休	高橋きのこ
【佳作】	子等集い母疲れたる母の日や 老け顔の友にやさしき同窓会	高橋きのこ 高橋きのこ
【佳作】	空食べるまんまる口の鯉のぼり 背くらべ柱のきづや子どもの日 恋風の来いとはためく鯉のぼり	田中章子 田中章子 田中章子
【佳作】	菜の花や硬化の元気良く跳ねる 紫木蓮老人の秘め事を聴く 図書館の人の蛙の目狩時	田中 勇 田中 勇 田中 勇
【佳作】	水神も桜の宴鏡池 春愁や入らぬ片付けスイッチオン かぶらぬが良きと囃され春帽子	田中早苗 田中早苗 田中早苗
【佳作】	鼻の下長さくらべるチューリップ 徘徊とまちがはれたる春遊び	田村米生 田村米生
【佳作】	過疎の村田植え観光ショーとなす 実梅落ち拾う人なき過疎の村 王女様誕生祝う子どもの日	津田このみ 津田このみ 津田このみ
【佳作】	キンキンを送るケロンパ花筏 宿酔ひ洗濯いそむ青葉風 リクルートスーツと飲むぞ初鯉	土屋泰山 土屋泰山 土屋泰山
【佳作】	聖賢の書を積み上げて目借時 母の日や父の厨の片手鍋 老どちの群れて登るや山笑ふ	飛田正勝 飛田正勝 飛田正勝

	春うらら散歩千歩で息がきれ	中井 勇
【佳作】	春コート帰りは腕にぶらさがり チューリップ風の伴奏フラダンス	中井 勇 中井 勇
【佳作】	新しき入歯馴染まぬ更衣 鉤ざきもほころびもなき蛇の衣 螢火に不動明王目をほそめ	永島董玉 永島董玉 永島董玉
【佳作】	花にかまけ俳句にかまけ家を留守 さかさまに衾をかづき明易き 蠅生れてすぐに人手にかかりけり	新島里子 新島里子 新島里子
【佳作】	蛇衣を脱いで財布の中は空 鯉来るさざえわかめと喧嘩して 東京の街や数多の蟻うろうろ	西をさむ 西をさむ 西をさむ
【佳作】	稚児の名と夢乗せ上がれ凧合戦 鶯の上達見習い歌稽古 平穏をめいめい感じ五月晴れ	花岡直樹 花岡直樹 花岡直樹
【佳作】	つかつかとばあちゃん二人来てビール 髭と髪トレードしたき薄暑かな	原田 曄 原田 曄
【佳作】	一日に五度の食事生身魂 バレンタイン鈍感力も試さるる 万愚節駄句のリメイク名句とす	ひがし愛 ひがし愛 ひがし愛
【佳作】	東大を受験しただけ大したもの 根切虫憎まれるため生まれ来て	久松久子 久松久子
【佳作】	今日よりはシャワーと決める立夏かな 蘊蓄と急須傾け新茶注ぐ 玄関にサンダル並び夏めけり	日根野聖子 日根野聖子 日根野聖子
【佳作】	桜餅犬に曳かれて善光寺 俳句語と今どき命名春おぼろ 走る父こぐ子や土手の二人三脚	平戸良治 平戸良治 平戸良治
【佳作】	米の虫研ぎ汁に浮き漉されけり 駆け込み寺の鉦扉閉づ五月来し	藤岡蒼樹 藤岡蒼樹
【佳作】	羅にアニマル柄のありありと 猫の恋うちの猫の名ジュリエット 配り物どんと配って祭かな	藤森荘吉 藤森荘吉 藤森荘吉
【佳作】	木漏れ日に頬を撫でさせ五月かな 思ひ出す幸せいくつ木瓜の花 せせらぎの音を聞きをり溪若葉	藤原セツ子 藤原セツ子 藤原セツ子
【佳作】	春の寒老いは目覚めて空元気 季節なに桜凍えて雪に泣く 好い絵です桜に雪は名画伯	細川岩男 細川岩男 細川岩男
【佳作】	教科書を置けばあくびの春炬燵 新つけて脚光あびる新茶売 自己中を随所に広げ花茨	細川寛子 細川寛子 細川寛子
【佳作】	休日の校舎にこだま時鳥 病む人に夢を語るや難波バラ 情厚きエンレインウに励まざる	松井寿子 松井寿子 松井寿子

【佳作】	春泥にスキップめきし着信音 老人の立乗りブランコ立往生 寒戻り引き攀つてゐる笑ふ山	松井まさし 松井まさし 松井まさし
【佳作】	もどり来し恋猫論す無粋なり 潰されてタンポポのまるは三角に 半島の芽吹きて太くなってをる	三橋百笑 三橋百笑 三橋百笑
【佳作】	葉草の乾ききらずに梅雨に入る 六月の日の出曳きゆくタグボート 雑草の匂ふ風あり梅雨に入る	宮森 輝 宮森 輝 宮森 輝
【佳作】	つばくらめその宙返りC難度 猿ほどは賢くなれず憲法記念日 絶賛は弔辞に似たり桐の花	百千草 百千草 百千草
【佳作】	親心言い伝え巻き菖蒲ふく かしわもちあんこはあんにこだわりぬ テーブルに手形を残し柏餅	森岡香代子 森岡香代子 森岡香代子
【佳作】	アイロンやハンカチの白おしひろぐ マロニエと呼べばお洒落に栞の花 母の日や遺書めきて見ゆ古葉書	八木 健 八木健 八木 健
【佳作】	何とまあ御負けの金魚長生きす 縁側の猫べったんこ仏生会	谷澤紀男 谷澤紀男
【佳作】	入れ立ての番茶も出花古茶かいな 時の日の正鵠を射し腹時計 竹婦人だめよだめだめ悶えけり	八洲忙閑 八洲忙閑 八洲忙閑
【佳作】	家計費の仕分けの甘き子どもの日 力水つけて竹の子肌晒す	柳 紅生 柳 紅生
【佳作】	子どもの日親も童顔草野球 羽ばたきて鳥になりたや五月晴れ 隠れんぼ大好き猫は藍の中	柳澤京子 柳澤京子 柳澤京子
【佳作】	小鼻孔花粉貰ひて鍾乳洞 この乙女あやめしょうぶか杜若 たんぼぼにならひ末路の白髪かな	山下正純 山下正純 山下正純
【佳作】	新緑や雀は鳩の餌を掠め 大東の虎杖でんと火曜市 若葉雨嫁ぐ挨拶幌馬車で	山本けい子 山本けい子 山本けい子
【佳作】	若草で指切るなんておとしより 筋書どほりだつた映画聖五月 歩くやどかり映つて波の効果音	山本 賜 山本 賜 山本 賜
【佳作】	やすやすと財を奪はれ万愚節 蛇消えて顔とりもどす餓鬼大将 厚化粧して生身魂徘徊す	横山喜三郎 横山喜三郎 横山喜三郎
【佳作】	ばつーもばつ二も笑顔盆踊	横山喜三郎